

継続事業評価シート

評価実施日 令和2年3月31日

令和元年度(3年目)

事業コード	35	事業名	職場改善啓発事業			戦略コード	4	戦略名	機動的・効率的な商工会		
担当部名	総務部	担当課名	総務・人材育成課	担当課長名	市井 仁	施策コード	18	施策名	自ら考え行動する職場改善活動の実施		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景										
社会経済情勢の変化により小規模事業者の経営環境が厳しさを増す中で、事業者ニーズに対応し商工会の使命を果たすことが求められている。そのためには、商工会が業務を効率的に進めることができる職場環境を整備していかなければならない。										
2. 事業のねらい										
県連合会と県職協が一体となって、職場単位で自らの仕事の進め方、あり方を総点検し、職員一人ひとりが自覚をもって職場改善活動に取り組むことで、質の高い仕事につなげるとともに、仕事に対するモチベーションを高めることにつなげる。										
3. これまでの評価結果										
		過年度	H29	A	H30	A	R1		R2	
職場改善活動計画を策定したことにより職場内の課題が共有され、より良い職場環境づくりのきっかけとなった。										
4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応										
職場改善活動計画の取組を継続し、これまでの課題を検証しつつ取組を強化していく。										

【取組評価】

取組コード	取組	実績	必要性	有効性	効率性	総合評価
81	職場改善方針の提示	職員協議会と連携して職場改善活動に取り組み、長時間労働の削減や職場内のOJT推進につながった。	a	a	a	A

評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)																	
取組コード						取組コード						取組コード					
指標名						指標名						指標名					
年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3
目標						目標						目標					
実績						実績						実績					
達成率						達成率						達成率					
達成度						達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価										
【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性					【取組評価】の必要性が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合)					a
〈評価の理由〉										
働き方改革、事務の効率化・生産性向上に向けて、一人ひとりの創意工夫だけでなく、組織全体として取り組んでいく必要がある。										
【有効性の観点】 事業目標の達成状況					【取組評価】の有効性が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合)					a
〈事業の目標は達成されているかどうか〉										
令和元年度においても、全県で職場改善活動計画を策定し、職場改善に取り組んだ。										
【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)削減のための取組状況					【取組評価】の効率性が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合)					a
〈コスト削減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉										
各職場において、コストをかけずに効率的に職場改善を行っている。										
2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合										A
各商工会の実情に応じて、それぞれの生産性向上や職場環境改善等の課題を解決する取組を計画的に実施することができた。										
3. 課題										
各職場で取り組んでいるが、好事例を共有し取組を強化していく必要がある。										
4. 今後の対応方針(改善点)										
職協役員会や秋田県商工会職員協議会交流サイト「スマイル」を活用し、好事例を共有できる仕組みを作る。										